

建築物石綿含有建材調査者(一般) 修了考査

試験年月日 令和 年 月 日

受講券番号	氏 名

1. 指示があるまで、問題は見ないで下さい。
2. 問題は合計35問です。
合格点は、正解が全科目で60%以上です。
3. 回答は、解答欄に
正解と思う番号を記入して下さい。
4. 試験時間は100分です。
5. 印刷の不明の場合は手を挙げて下さい。
6. 合格者には、採点後に修了証をお渡しします。
7. 受験に不正行為があった者は、不合格となります。

＊ 一般社団法人 群馬労働基準協会連合会 ＊

2023.04

考査番号 2

採点者	確認者

回答	番号	一般石綿調査者	科目1:建築物石綿含有建材調査者に関する基礎知識1	
	問1	石綿の種類に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 今まで世界で使用されていた石綿の約9割以上が、クリソタイルである。 ② 石綿は非常に特徴的な繊維状の形態を有し、外観が絹のような光沢を有するものもある。 ③ 石綿のうち、蛇紋石族に分類されるものはクリソタイル1種類のみである。 ④ 石綿の使用状況の調査に関する知識又は技能の習得のための教育の用に供される石綿も、製造等が禁止される有害物に含まれる。		
	問2	石綿の特性に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 引っ張り強度が極めて大きい。 ② 電気を通しにくい。 ③ 酸・アルカリ等の薬品に侵されやすい。 ④ 価格が安い。		
	問3	石綿関連疾患に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 胸膜中皮腫の発症リスクは、石綿の種類によって異なり、クロシドライトが最も危険性が高い。 ② 喫煙と石綿の両者のばく露を受けても、肺がんのリスクは変わらない。 ③ 石綿肺は大量に石綿を吸入することによって発症する。 ④ びまん性悪性胸膜中皮腫は、わが国では近年増加傾向がみられる。		
	問4	建築物に使用されている石綿に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 石綿含有耐火被覆板は、化粧を目的に既存建築物等に使用されている。 ② 石綿を含有する屋根用折板裏断熱材は、ガラス長繊維のフェルト等に代替化されている。 ③ 石綿を含有する屋根用折板裏断熱材は、屋根折板にクロシドライト90%以上のフェルト状の断熱材を張り付けたものである。 ④ 代表的な石綿含有成形板に使われる石綿の種類としては、クリソタイル、アモサイト、クロシドライトがある。		
	問5	石綿含有建材のレベル分類について、<u>レベル2</u>に該当する石綿含有建材はどれか選びなさい。 ① 吹き付け石綿 ② 石綿含有ケイ酸カルシウム板第2種 ③ ロックウール吸音天井板 ④ 石綿スレート		

回答	番号	一般石綿調査者	科目2:建築物石綿含有建材調査者に関する基礎知識2	
	問6	大気汚染防止法、建築基準法、その他関係法令に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。		
		① 大気汚染防止法では2013(平成25)年の改正により、事前調査の届出義務者は元請け業者へ変更された。		
		② 建設リサイクル法における対象建設工事となったときは、事前調査時に吹付け石綿その他の対象建築物等に用いられた特定建設資材に付着したものの有無の調査、その他対象建築物等に関する調査を行うことが規定されている。		
		③ 建築基準法は、規制対象は吹付け石綿および石綿含有吹付けロックウールとされている。		
		④ 大気汚染防止法では、事前調査結果等の掲示板の大きさは、日本産業規格A3判以上とされている。		
	問7	建築物石綿含有建材の事前調査に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。		
		① 建築物の所有者や建物管理を所有者から受託している業者などから竣工年、改修履歴などの情報を入手する。		
		② 2006(平成18)年9月よりも前に着工した建築物等については、書面調査の判定だけで、調査を確定終了してよい。		
		③ 改修や解体の事前調査の目的は、労働者保護や周囲への飛散防止である。		
		④ 対象とする石綿建材は、すべての建材において事前調査が必要である。		
	問8	建築物石綿含有建材調査に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。		
		① 石綿の有無が不明な吹付け材、断熱材、保温材、耐火被覆材を調査する時は、該当部位からの飛散を防止するため、必ず該当部位の湿潤化を行う。		
		② 調査にあたってはできる限り石綿を吸入しないように、防じんマスクの着用、帯電防止の作業衣の着用を行う。		
		③ S造(鉄骨造)の建築物を調査する場合、吹付け材が劣化等により天井裏に堆積しているおそれがあるため、点検口からの調査の際、点検口からの粉じんの飛散に留意する。		
		④ 板状のものは、図面上無含有建材との記載があれば石綿が含まれていることはない。		
	問9	石綿含有建材調査者に求められているものに関する次の文うち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。		
		① 建築物解体等における石綿規制についての知識を有すること。		
		② 建築物などの設計図書や施工図などを解析し、必要な情報を抽出できること。		
		③ 石綿分析結果の解析力を有すること。		
		④ 依頼者の意向に沿った調査を実施する力を有すること。		
	問10	建築物の解体等工事における石綿飛散防止対策に係るリスクコミュニケーションに関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。		
		① リスクコミュニケーションの定義は、「解体等工事における石綿飛散に係るリスクや飛散防止対策の内容と効果などに関する正確な情報を、工事発注者または自主施工者と工事受注者が周辺住民等や地方公共団体等関係機関と共有し、相互に情報や意見を交換して意思疎通を図ること」である。		
		② 石綿に係る法規制や解体などの工事現場を管轄する地方公共団体のリスクコミュニケーションに関する条例などを確認する。		
		③ 調査者は石綿の事前調査結果に対する説明について、建築物所有者等に代わって、該当地域の住民等に行ってはならない。		
		④ 周辺地域に関する情報の収集を行う。		

回答	番号	一般石綿調査者	科目3:石綿含有建材の 建築図面調査
	問11	建築一般に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 建築基準法では、国民の生命、健康及び財産の保護を図るため、建築物の防火規制を定めている。 ② 建築物の用途、規模、地域に応じて、建築物の壁や柱などの主要構造部を耐火構造や準耐火構造とすることなどが義務付けられている。 ③ 市街地における火災の危険を防ぐために、地方公共団体が都市計画において防火地域などを定めている。 ④ 防火地域などの一定規模の建築物に対する規制については、戸建て住宅には適用されない。	
	問12	建築一般に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 法第22条区域とは、防火地域および準防火地域以外の市街地において、火災による類焼の防止を図る目的から、建築物の屋根を不燃材で使用するなどの措置を必要とする特定の行政庁により定められた区域である。 ② 「延焼のおそれのある部分」(建築基準法第2条6号)とは、隣地境界線及び道路の中心線よりそれぞれ1階にあっては2m以下、2階以上にあっては6m以下の距離にある建物の部分をいう。 ③ 建築基準法第2条5号の「主要構造部」は、建築物の防火上の観点から定められている。 ④ 建築基準法第2条5号の「主要構造部」に、建築物の基礎は含まれない。	
	問13	RC造とS造の比較に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① RC造は、外壁・はり・スラブ・間仕切壁が一体施工となるが、床や外周部の周り等にすき間が発生することが多い。 ② RC造の建築物においては建築基準法の防火・耐火規制などの法的規制よりも、設計者の設計思想や要求品質によって、吹付け石綿や他の石綿含有建材が使用されることが多かった。 ③ S造の場合、各階の床の外周部の端部と外壁間や、間仕切壁と床スラブ下面との間にすき間ができ、耐火材などで埋める必要がある。 ④ S造において、ACL板やセメント押出し成形板などで耐火間仕切壁を施工する場合、はりや床のデッキ下とACL板や補強金物の間にすき間ができる。このすき間埋めや補強金物の耐火性能確保の為、吹付け石綿等が使われた。	
	問14	防火区域に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 法令により、3層以上の堅穴には、堅穴区画が必要になる。 ② 防火区画は、大きくは堅穴区画、異種用途区画の二つの観点から区画することで延焼を防止する。 ③ 異種用途区画とは、同じ建築物の中に異なる用途が存在し、それぞれの管理形態が異なる場合、用途や管理形態の異なる部分を区画することで被害の拡大を食い止めるものである。 ④ 建築設備は、耐火構造に事前に計画した開口部をあけ、配管やケーブルを通した後、周囲を埋めるなど耐火性能を損なわないようにしなければならない。	
	問15	内装制限に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 建築基準法上、一定条件を満たす場合は、壁・天井の室内に面する部分の仕上げを防火上支障のないようにしなければならない。こうした規定を「内装制限」という。 ② 建築物の屋根等の裏面には、不燃材料の仕上げ材として石綿含有吹付けロックウールが使用されている可能性がある。 ③ 一定規模以上を特殊建築物の用途に供する建築物の廊下・階段などの壁・天井を不燃材料とすることが義務付けられている。 ④ 一定規模以上を特殊建築物の用途に供する建築物の居室の壁・天井を難燃材料とすることが義務付けられている。	

	問16	設計者の設計思想や要求性能に着目する方法に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 石綿には調湿機能はないので、書類保管庫などの壁・天井等に使用されていることはない。 ② 煙突の内部では躯体への悪影響を防止し、煙突内の排ガスがスムーズに廃棄できるよう石綿を含有する煙突用断熱材でライニングされた。 ③ 仕上げ材として石綿含有吹付けバーミキュライトや石綿含有吹付けパーライトを施工した部屋(部位)には、共同住宅の食堂・居間などがある。 ④ 断熱(空調負荷の軽減等)・結露防止を目的として吹付け石綿を施工した部屋(部位)には、屋上階の部屋の天井裏(スラブ下)や建物の北側の壁などがある。
	問17	レベル1の石綿含有建材に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① レベル1の石綿含有建材は施工方法や材料によって5種類に分類される。 ② レベル1の石綿含有建材の使用目的には耐火や断熱・結露防止、吸音がある、目的によって種類が限定できることがある。 ③ 石綿含有吹付けパーライトは耐火構造認定を取得した経緯がないで、耐火被覆が必要とされている部位に使用されていることはまずないと考えられる。 ④ 石綿含有吹付けロックウール(湿式)は比重が大きく硬いので、吸音(遮音ではない)を目的とした吹付け石綿に使用されていないと推測できる。
	問18	レベル3の石綿含有建材に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 石綿含有せっこうボードは、公的な建築物(官庁建物、公立学校、公立病院など)でほとんどが使用された言われている。 ② 調査対象建築物の施工時期が分かればレベル3の石綿含有建材は、かなりの確率で推定することができる。 ③ レベル3とされている石綿含有建材の特徴は、種類や製品数がレベル1、2よりも圧倒的に少ないことである。 ④ 石綿セメント管には、繊維モルタル成形の外管に硬質塩化ビニルを内在させた耐火二層管がある。
	問19	図面の種類と読み方に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 建築物を建設するにあたり、管轄の担当官庁に建築物を建てる許可を得るために「建築確認申請書」や各申請書類などを提出する。この時の図面を建築物概要図面と言う。 ② 建物所有者が保存している申請書類の中に、建物確認申請書が残っていることが多い。 ③ 建築物概要書には、用途、地域の種類、構造のほか、建物の高さ、階数、床面積などの建物の規模に関する情報あるいは駐車場の有無などが記載されている。 ④ 特記仕様書に、石綿含有建材が使用されている可能性の高い、防水工事、屋根工事に関する記載事項から屋上のルーフィングやコーキングの材料が確認できる。
	問20	石綿含有建材情報の入手方法に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 実際に使用されている建材が石綿含有建材か否かが判断できるのは、その建材の商品名が特定でき、メーカーが正確な情報を開示している場合である。 ② 建材の石綿含有情報とは、石綿を意図的に原料として工場で混入していたという情報であり、法令基準の0.1%超で混入している可能性はない。 ③ 国土交通省と経済産業省が共同で情報開示している「石綿(アスベスト)含有建材データベース」を活用できる。 ④ 検索した建材(商品)がデータベースにないことをもって、「石綿無し」の証明にはならない。

回答	番号	一般石綿調査者	科目4:現場調査の実際と留意点	
	問21	調査の流れに関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 調査に必要な建材の取り外しや部分的な試料採取後の補修等の処理についての打合せは、調査後に行う。 ② 調査者は適正な石綿含有建材の取扱い方法を提案することとなる。 ③ 調査対象の建築物は、たいていの場合、これまでに訪れたことのない建築物であり周辺環境なども分からないため、調査者は書面調査を行った後に現地に赴く。 ④ 事前調査では、内装や下地等の内側等、外観からでは直接確認できない部分についても調査する必要がある。		
	問22	調査フローに関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 建築図面がない場合は、詳細調査に入る前に大まかな建築物概要(構造の確認等)を把握することは有効である。 ② 調査全体のフローを考えてそれに沿って行動することは、経費や労力の低減、調査の正確性や信頼性の確保において最適な方法である。 ③ みなし含有判定と分析による含有・無含有判定は判定結果の持つ意味合いは同じである。 ④ ヒアリングと図面確認を実施した後、大まかな現地確認作業の流れを決める。		
	問23	事前準備に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 調査時の服装のポイントは、調査作業中であることを第三者に伝えるという点と、粉じんばく露からの自己防衛という点の2点である。 ② 調査の前日までに必要な用品や装備を準備しておく。 ③ 試料採取に際しては呼吸用保護具は国家検定合格品のRS-1またはRL-1の使い捨て式防じんマスクを用いる。 ④ 調査を円滑に進めるために準備すべき用品は多種にわたるので、調査対象の建築物に応じて各自が考え、準備することが望ましい。		
	問24	現地調査に臨む基本姿勢に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① まず、案内人、建築物の管理者、鍵の保管者等の立ち合い者に挨拶をしておく。 ② 調査対象の建築物について、個別の部屋ごとに条件(制約)や注意事項があれば確認し、記録しておく。 ③ 調査時に建築物利用者や滞在者がいる場合でも、調査者は保護帽や防じんマスクを装着したまま移動する。 ④ 調査の動線について立合者と事前に協議しておく必要がある。		
	問25	調査時の留意点に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 各室等を網羅的に調査するとともに、各室の床・幅木・腰壁・壁・天井・ふところ等の各部位に漏れが無いよう、石綿含有の可能性のある建材がないか確認を行っていく。 ② 現地における調査とは単に外観を見ることだけではなく、分析によらずに確認できる石綿有無の判断根拠について、調査を行うことである。 ③ 建築中に地方公共団体などから個々に指導を受けて、用途変更に伴う付帯工事がなされて当初の建築図面と異なっている場合があるので注意する。 ④ レベル1の石綿含有建材は、一般的に建築後や改修工事で手を加えられる可能性のある仕上げ材に用いられる建材が多いので留意する。		

	問26	調査時の留意点に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 試料採取後にはHEPAフィルター付き真空掃除機などで十分に付着した粉じんを吸い取ってから採取場所を離れる。 ② 夏季における高温のボイラー室で作業を行う場合は、熱中症予防の観点から作業着は半袖の物を着用する。 ③ 安全措置が確保できていないような箇所では、決して無理な調査はしない。 ④ 危険な箇所の場合には、調査報告書に採取不能であった理由を記載すればよい。
	問27	裏面調査に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 無石綿の表示が印刷されている場合は現在の法律では石綿含有建材の可能性はない。 ② 成形板の裏面には情報が多いことがある。商標は企業名が不明の場合に、活用することができる。 ③ 天井・壁等の裏面の情報を確認したもの、建材を製造していたメーカーが既に存在しないケースもある。 ④ 成形板裏面確認時は、厚さも確認する。天井点検口の材料は、天井使用材とは違う可能性があることを考慮する。
	問28	調査者による試料採取に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 採取箇所の選定は、先入観を持たずにその対象となる室内を詳細に観察することから始める。 ② 大規模な施工現場では、二以上の施工業者が吹付け作業を行い、片方が石綿含有の、もう片方が石綿不含有の吹付けロックウールで施工をしたりする場合がある。 ③ 過去の封じ込め工事でも相当年数を経過したものは、その後の損傷などで劣化している場合もあるので、改めて劣化判定をし、場合によっては試料を採取する。 ④ 建築物の所有者などから石綿対策工事は既に完了していると説明されたら、現地確認をする必要はない。
	問29	調査者による試料採取に関する次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 吹付け材は、現場において、吹付け材料を対象物に吹付けて完成するが、完成したものは材料組成が不均一になっている可能性が極めて高い。 ② 折板屋根用断熱材に石綿を使用している場合は、折板屋根用断熱材の施工箇所から3ヵ所以上、1ヵ所あたり100cm²程度の試料をそれぞれ採取する。 ③ 複層仕上塗装(吹付タイル仕上げなど)は下地への付着強度が低いので、下地と主材層との界面からきれいにはく離除去できる。 ④ 色、形状、硬さ、内容物、テクスチャが見た目で異なる試料は異なる試料と判断し、個別に採取する必要がある。
	問30	石綿の劣化に関する記録について次の文のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか選びなさい。 ① 一部損傷状態とは、全体的には「劣化なし」の状態であり、損傷は限られた一部分だけで人為的な所作によってなされた場合を指す。 ② 一部劣化状態とは、全体的には「劣化なし」の状態であるが、局部的に漏水や結露などの建材製品が変質するような要因が起こり、一部に劣化が進んだ状態の箇所が1ヵ所以上確認された場合を指す。 ③ 劣化、損傷の程度の見分けは、具体的に数値化した評価基準によって判定する。 ④ 石綿劣化の判定は、「劣化」、「やや劣化」、「劣化なし(劣化が見られない)」という3分類で判定する。

回答	番号	一般石綿調査者	科目5:建築物石綿含有建材 報告書の作成	
	問31	安衛法令の石綿則に基づく記録に求められる、主たる3要件に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。 ① 石綿を含有しないと判断した建材は、その判断根拠を示す。 ② 調査の責任分担を明確にする。 ③ 石綿含有廃棄物の処理の具体的方法について示す。 ④ 石綿含有建材の有無と使用箇所を明確に伝える。		
	問32	「石綿含有建材有無に関する事前調査結果報告書」に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。 ① 調査方法は、書面調査、現地調査、分析調査の該当するもの全てを選択する。 ② 調査対象材料は、吹付け材・保温材、断熱材、耐火被覆材、成形板、その他の該当するものをすべて選択する。 ③ ヒアリングは、対象者(発注者・管理者・所有者)等を記入する。 ④ 対象物件の概要における竣工年は、建築物の着工年を記入する。改修年を記入してはならない。		
	問33	調査報告書の作成に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。 ① 同一と考えられる建材の範囲ごとに、原則として3ヵ所以上から試料を採取し、適宜色分けをして採取位置を明記する。 ② 解体においての事前調査は部屋を抽出して調査する。 ③ 分析試料採取位置図において、分析試料の採取場所、試料ナンバー、3ヵ所からの採取状況が分かるように平面図上に記載する。 ④ 調査詳細報告書における建物用途は、事務所、工場／倉庫、娯楽施設、学校など複数選択可である。		
	問34	分析試料一覧表(分析依頼表)に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。 ① 採取建物名は、調査対象に複数棟があれば配置図等で確認し、記載がない場合は、無記入にする。 ② 採取物建材名は、竣工図(特記仕様書、仕上表)に書かれている建材名(商品名)に合わせる。 ③ 採取場所は3つの部屋にまたがることもあり得る。 ④ 試料採取日、採取者資格は、採取した者の姓名と資格を記す。		
	問35	維持管理における石綿調査報告書等の留意事項に関する次の文のうち、 <u>誤っているもの</u> はどれか選びなさい。 ① 維持管理における石綿含有建材調査は法的に義務である。 ② 維持管理における石綿含有建材調査を行う資格としては石綿含有建材調査者でなければならない。 ③ 維持管理における石綿含有建材調査は、全館全部屋を対象とすることが基本である。 ④ 建物使用中に調査が出来ない部屋、箇所がある場合はその情報を正確に記録する。		